

業 種 / 製造業
 主な事業内容 / 住設機器の開発製造販売・関連機器の小売
 従業員数 / 7,098人(2020年1月末 都内拠点社員数)

訓練・研修会を通して災害対策体制の実効性を検証

組織体制の構築、備蓄品配置の見直し、マニュアルなどの作成の後、「発災初動から事業所待機」に向けた対応を想定して、階段での負傷者搬送、屋外汚物集積所設置、臨時救護室設置などのシミュレーション訓練を実施。

本社ビルでは訓練や研修を通して防災計画の実効性を検証し、対策メンバーへの浸透を行っている。館内チラシや社内サイネージ、社内SNSを通じて、一般の従業員への周知も実施。



受傷者を想定した搬送訓練の様子



定期的に防災訓練および研修会を実施



階段での負傷者搬送の訓練の様子

新しい安否確認システムを導入し、平時訓練も実施

●地震発生で自動通知を行うシステムを導入

いままでの安否確認システムでは通知が手動のため、震度6弱以上の地震発生で自動通知を行うシステムに変更。全国520拠点ある各拠点の被災状況などの情報を共有できる。2019年の北海道胆振東部地震の際は、安否確認システムの自動通知により、発災後3時間以内の入力率が78%まで上昇。新システムでは社員と家族間の連絡機能も付加され、利用の幅が広がった。

●平時訓練を実施して報告の入力率を向上

そのほかに安否確認の手段として、メール、専用サイト、携帯アプリ、電話など複数を用意。月1回、期限を定めて安否報告を行う平時訓練を実施し、部門や関連会社ごとに安否報告の状況を公開することで、入力率の向上を図っている。

本店ではINAX災害配慮トイレ「レジリエンストイレ」を配置

LIXILはトイレメーカーとして、災害時のトイレ問題の解決に向けて取り組んでおり、2019年4月、災害時の避難所においても水洗利用できる、快適で使いやすいINAX災害配慮トイレ「レジリエンストイレ」を発表。平常時は5L、災害時は1Lの水で洗浄可能な状態に切り替えることで、災害での断水時でも、いつものトイレをそのまま快適に使用できるのが特徴。本店の防災対策として「レジリエンストイレ」を配置した。



レジリエンストイレ